

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201769		
法人名	株式会社富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら 1階ユニット		
所在地	静岡県清水区梅ヶ谷645-13		
自己評価作成日	令和6年8月5日	評価結果市町村受理日	令和6年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2274201769-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街からは少し離れた郊外になりますが、山や川に囲まれ自然にあふれた静かな場所にあります。春には庭先にメジロなどの鳥も訪れ、施設内より皆様と観察しています。車の通りも少ないので、ゆっくり自然を感じながら散歩が楽しめます。また、季節に応じた行事やレクリエーションを行ったり、楽しみを持って生活できるよう援助しています。

食事も毎食栄養士が考えた献立を元に職員が手作りで作っていますので、出来立てのものをご利用者様の食事形態に合わせ調理しています。医療面では系列の病院と24時間体制で連携をとり、怪我や病気に即座に対応できるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭先の木の枝に蜜柑を置き、ひよどりやメジロの訪れを心待ちにする日々を送る事業所は、自然の恩恵を常に受けています。餌を氣にかける利用者の姿も見られ、また天候に左右されながらもできる限り毎日散歩に出かけ、近所の人との挨拶や、体を動かし外の空気を感ずることを大切にしています。時には近隣の友人が訪れており、つながりを継続する姿勢も事業所の良い点です。また「家に寄りたい」という声には、その背景や理由を汲み取り、利用者一人ひとりに寄り添うことを第一に考える点も秀でていて、新しい管理者の下、慈愛ある活動に突っ込んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を玄関、台所、事務所に掲げ、いつでも確認できるようにしています。また、毎月行うスタッフ会議で最初に管理者が読み上げ、全員で理念を再確認しています。	日頃から挨拶を大切にし、職員自ら声をかけるよう指導しています。利用者からは「明るい声に救われる」「元気になるよ」といった言葉が寄せられ「毎日を明るく楽しくゆとりをもって穏やかに」という理念の浸透が感じられます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方に会ったら必ず挨拶を交わしています。また、運営推進会議には自治会長や民生委員や地域包括の方が定期的に参加して下さっています。	近隣の人からは雑草の処理の申し出を受けたり、花が届くこともあります。散歩では挨拶を交わすだけでなく、無人販売でキウイや柿を利用者が購入することもあり、生活に地域交流が溶け込んでいます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	良天候の日には、ほぼ玄関を開放しています。いつでも認知症についての相談など、情報の共有又は提供できる環境を目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故の報告、イベントなどの報告、身体拘束についてのお話しをしています、会議で意見や評価を参考にしながら、サービスの向上を目指しています。	運営推進会議は四半期ごとに開催しており、感染症の発生や事業所の都合で延期する場合も必ず翌月には実施しています。会議資料にはヒヤリハットやけがの報告、感染状況、行事報告や計画が記載が細かに記載され、オープンな姿勢が観えます	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	令和5年10月から介護相談員の訪問を再開しています。月に1回訪問して下さり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。	コロナ渦で中断していた介護相談員の訪問を再開し、月に一度、2時間の滞在が実現しています。相談員は全ての利用者に声をかけ、話を聞くだけでなくレクリエーションにも参加するため、利用者にとって職員以外の人と触れ合う楽しみとなっています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲げ、身体拘束をしないケアをおこなっています。また、年1回身体拘束廃止フォーラムに参加しています。また、3ヶ月1回スタッフ会議の前に身体拘束適正化検討委員会を開催しています。職員研修も年2回行っています。	身体拘束適正化検討委員会を年4回実施しています。「スピーチロック」に関して、例えば「トイレが混む時間になるけど今のうちに行っておきますか」と声をかけるなど、「待っててね」とならない対応を導き出しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、毎月の会議で虐待が無いかなど話し合い意識の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談時に制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得して契約を締結できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入し投函できる意見箱を設置しています。また、家族が来所されたら必ず声を掛け、施設でのご様子を話したりご家族の話を聞いています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えています。	面会の頻度は様々であるため電話対応も欠かしません。通信は毎月1回郵送し、例えば「誕生日会では主役となったことで恥じらっていました」と具体的に報せるようしています。朝の挨拶や車で移動時には会話が弾むため、要望を聴き取る大事な機会としています	家族から意見を聞く機会は設けられていますが、今後は本音で話せる場を設けることも期待します
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や年2回個別の面談を行い、意見や提案、要望などを反映できるように努めています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えています。日頃から職員とのコミュニケーションも大事にしています。	スタッフ会議、個別面談と話し合う場を設け、特にスタッフ会議では全職員の意見を尊重しながら調整を図るよう、管理者は努めています。また夜勤を業務としている人とそうでない人では理解には差がある為、管理者が間に入りフォローしています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入してします。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修の提供や希望がある時には勤務表の考慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週に一度、姉妹グループホームの管理者で会議を行い、意見、情報を交換、共有しています。会議以外でも連絡を取り合い意見、情報交換しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がアセスメントの重要性を理解し、出来るだけ早く本人に安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは定期的に連絡をとっており、来所の際には不安や要望の話を聞き、解消できるように努めています。また、毎月、本人の近況報告などを手紙にて伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントをとりながら、本人や家族の希望を伺い、グループホームで出来る事と出来ない事を説明し、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事、レクリエーション等の造作物を作成することで、共同生活をしているという意識を持ってもらうよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族も一緒に参加していただけるよう通知を出す等して、気軽に来所していただける雰囲気をつくっています。病院受診に同行して頂く時もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族に毎年年賀状を出したり、定期的にお手紙を出したりしています。面会はコロナウイルス感染防止の為、玄関先で面会出来る環境を作っています。	事業所では家族に向けて一人ひとりの様子を伝える通信を渡しており、中には自分で書きたいという人もいるため職員が支援することで望みを叶えています。馴染みの人との関係継続に配慮があり、年賀状は全員が出せるようにしています	「面会は玄関先ではなく中まで」という要望が挙がっています。本部と相談の上、最善の方法を導き出し工夫していくことを望みます
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズになるようにリビングの座席の配置を考慮したり、孤立することが無いように職員が間に入り関係を保つように努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が停止した後でも、必要に応じて可能な限りフォローするようにしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けており、各利用者様に担当職員が決まっています。その為、毎月のスタッフ会議にて、各担当者がそれぞれの利用者様の思いや希望、状態などについて発言をし、検討が必要な場合は全員で話し合いをしています。	常勤職員一人に対して1～2名の利用者を担当する仕組みを取り入れています。ペアは相性を考慮して決めており、経験豊かな職員が多いことから管理者は利用者の気持ちを汲み取る点で大きな差はない、と判断しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人からこれまでの生活観や環境を聞く、または以前サービスを受けていた場所からの情報提供を通じて、なじみの暮らし方の把握をできるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で話し合って情報を共有し、日々の暮らし方や心身状態の把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをとり、計画作成担当が本人や家族の意見をまとめて介護計画を作成しています。ニーズの変更やADLが明確に変化があった場合なども、必要に応じてその都度見直しています。	家族からの要望は面会時や電話で聞き取り「手伝いをしてほしい」などを介護計画に反映しています。また「過度な干渉を避け自分のペースで生活したい」という利用者の希望も把握し、趣味に没頭する時間を保障しながら気持ちを満たすという支援があります	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護サービス実施記録を作成し、長期、短期目標を達成する為に、スタッフが内容を確認しサービスができた日には印を押し、月末にサービスが適切に提供されているか明確にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な限り対応していきたいと思っていますが、現段階では多機能化への取り組みは行っていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域の特徴を調査、把握して活用していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は系列の病院へ希望する家族が多く、職員が付き添い、介助を行っています。以前からのかかりつけ医希望の場合、家族が付き添い、その後家族から情報を聞き、共有が出来るようにしています。家族が対応できない場合は職員が付き添う事もあります。	定期受診は月に一度系列の病院でおこなわれ、結果は介護記録に記載しています。家族には前後に必ず一報を入れ、迅速な情報共有に至っています。専門医の診察は基本的に家族がおこないますが、車いすへの対応が難しい場合は職員が送迎と付き添いのサポートをしています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の健康管理の他に、系列病院と24時間体制で連携をとりながら利用者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や相談員と相互に連絡を取り合って、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、事業所で出来る事と出来ない事を説明し、同意をいただいています。	「重度化した場合の対応に係る指針」を整備し、看取りをおこなわない方針や食事が摂れなくなった場合、系列病院へ移設する旨の同意を得ています。わずかな体調の変化も適宜家族に伝え、入院への移行が円滑に進むよう配慮が成されています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修で実践力を身につけられるよう努めています。また、急変時の対応マニュアルを用意いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームではあらゆる事象を想定した防災訓練を、年2回(3月11日)行っています。また、夜間にも対応できるように緊急連絡網を作成し、災害時に活かせるようにしています。	この一年、新しい入職者はいませんが、消火器の設置場所や避難経路と通報装置の使用方法について説明をすることとしています。停電時にもエレベーターが作動するため水害時は事業所の2階へ、地震と火災発生時は速やかに外に出ることを基本としています	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけが大切だという事は職員も理解しています。気になる対応があった場合にはその都度指導しています。	「仕事に行きたい」と言う人には「休憩中ですから1時間ほどゆっくりしましょう」「布の仕分けも大事な仕事ですから一緒にやりましょう」と否定せず寄り添う言葉をかけています。併せて体を動かして気分を発散できるよう、事業所内を自由に歩くことも保障しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを大切にしています。個々の希望を表現しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	便宜上、ホームでの1日の流れを作成していますが、それに捕らわれることなく、利用者のペースで過ごせるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容をはじめ、2ヶ月に1回、任意での散髪を行っています。また、本人の希望にあわせた服装をしてもらえるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面に考慮しながら、食事前、後のテーブル拭きを職員と一緒にしています。献立を変更して寿司やカップラーメンを食べたり、ホットケーキ、どら焼きを一緒に作るイベントを行いました。	通常の食事では生魚の提供がないため「寿司を食べたい」という利用者の希望が多く寄せられ、時折献立を変更して地元のお寿司屋さんに出前を頼みます。誤嚥を防ぐためのネタの変更や刻み食の人へのすきみ丼の用意など、お店側の協力も得られています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは栄養士により管理されています。水分量も不足しないように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや介助にて口腔ケアを行っています。義歯使用者は許可を得て眠前に預かり、洗浄しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員で共有し、出来るだけトイレで排泄を行っていただくよう支援、援助しています。夜間は睡眠を優先しオムツを使用している方もいます。	多くの人がリハビリパンツを着用していることから、皮膚トラブルを少なくするために清潔を保ちつつ、皮膚が赤くなったり痒みがありそうな時は軟膏による保湿をしています。便秘への対応は服薬と並行して水分を多めに摂取できるように促しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や適度な運動など、個々に応じた予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴担当者を配置し、基本的には週2回ですが、希望があればいつでも入浴できるようにしています。また、好みにより入浴剤も使用しております。	「家で入りたい」と言い入浴を渋る利用者もいますが、職員は脱ぎ着が面倒なのかと考え対応しています。風呂の湯温は42度に設定しており、シャワーは各利用者の好みに合わせた温度に調整した上で「この温度でいかがですか?」と確認しつつ足元からかけるようにしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬の説明者をよく読み、理解した上で服用の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、日光浴、散歩、読書、工作など、利用者がゆっくりと過ごせる環境を提供できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は担当職員が中心になり個別及びグループ別に外出援助をしていました。現在コロナ禍で外出は出来ない為、施設周辺を散歩するようにしたり、受診の際に帰りにドライブをしながら帰ったりしています。	車いす利用者が増えたため全員での外出は難しくなってきたものの、一日に車を4往復させ尚且つ数日かけ桜の花見に出かけています。また通院もドライブ気分を味わえる楽しいひとときとなっています。さらに散歩は介護計画に位置付け、気候の良い時には積極的に出かけています	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族が行っていますが、本人と家族の希望により、少量のお金を所持し、職員と共に買い物に出かけた際、自身で購入することが出来るよう勤めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙のやり取りが出来るように支援しています。電話も必要があれば取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度に配慮し、エアコン、加湿器を利用し過ごしやすい環境を提供しながらも、適宜空気を入れ替えるなど、工夫して生活環境を整えています。また、季節の物の工作物や、お花を飾ったりしています。	南向きの大きな窓から差し込む陽の光と円形のダイニングテーブルが、居心地の良い穏やかな空間を作り出しています。またリビングには散歩中に見つけたウコンの花が飾られ、花好きの利用者が水替えをしたり花がらを摘んで手入れをしています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際にソファを設置し読書やTV鑑賞など、くつろぎながら生活できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に頼んで、馴染みのある物を持ち込んでいただき、なるべく自分の家にいるかのような空間作りを目指しています。お部屋に位牌を置いている方やアルバム、家族との写真を飾っているお部屋もあります。	血圧計や長年家庭で使っていた時計などが居室に持ち込まれ、広々とした空間に整然と置かれています。事業所のレクリエーションで作成した作品を飾るために、透明の袋が壁に取り付けられ、馴染み深いものと今の生活を大切にしている様子が垣間見えます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、リビングやトイレなどには手摺りを設置し、出来るだけ自立した生活を送れるような環境にあると思います。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201769		
法人名	株式会社富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら 2階ユニット		
所在地	静岡県清水区梅ヶ谷645-13		
自己評価作成日	令和6年8月5日	評価結果市町村受理日	令和6年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2274201769-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街からは少し離れた郊外になりますが、山や川に囲まれ自然にあふれた静かな場所にあります。春には庭先にメジロなどの鳥も訪れ、施設内より皆様と観察しています。車の通りも少ないので、ゆっくり自然を感じながら散歩が楽しめます。また、季節に応じた行事やレクリエーションを行ったり、楽しみを持って生活できるよう援助しています。

食事でも毎食栄養士が考えた献立を元に職員が手作りで作っていますので、出来立てのものをご利用者様の食事形態に合わせ調理しています。医療面では系列の病院と24時間体制で連携をとり、怪我や病気に即座に対応できるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭先の木の枝に蜜柑を置き、ひよどりやメジロの訪れを心待ちにする日々を送る事業所は、自然の恩恵を常に受けています。餌を氣にかける利用者の姿も見られ、また天候に左右されながらもできる限り毎日散歩に出かけ、近所の人との挨拶や、体を動かし外の空気を感ずることを大切にしています。時には近隣の友人が訪れており、つながりを継続する姿勢も事業所の良い点です。また「家に寄りたい」という声には、その背景や理由を汲み取り、利用者一人ひとりに寄り添うことを第一に考える点も秀でていて、新しい管理者の下、慈愛ある活動に突っ込んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を玄関、台所、事務所に掲げ、いつでも確認できるようにしています。また、毎月行うスタッフ会議で最初に管理者が読み上げ、全員で理念を再確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民の方に会ったら必ず挨拶を交わしています。また、運営推進会議には自治会長や民生委員や地域包括の方が定期的に参加して下さっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	良天候の日には、ほぼ玄関を開放しています。いつでも認知症についての相談など、情報の共有又は提供できる環境を目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故の報告、イベントなどの報告、身体拘束についてのお話しをしています、会議でた意見や評価を参考にしながら、サービスの向上を目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和5年10月から介護相談員の訪問を再開しています。月に1回訪問して下さり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲げ、身体拘束をしないケアをおこなっています。また、年1回身体拘束廃止フォーラムに参加しています。また、3ヶ月1回スタッフ会議の前に身体拘束適正化検討委員会を開催しています。職員研修も年2回行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、毎月の会議で虐待が無いかなど話し合い意識の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談時に制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得して契約を締結できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入し投函できる意見箱を設置しています。また、家族が来所されたら必ず声を掛け、施設でのご様子を話したりご家族の話を聞いています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えていきます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や年2回個別の面談を行い、意見や提案、要望などを反映できるように努めています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えていきます。日頃から職員とのコミュニケーションも大事にしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入してします。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修の提供や希望がある時には勤務表の考慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週に一度、姉妹グループホームの管理者で会議を行い、意見、情報を交換、共有しています。会議以外でも連絡を取り合い意見、情報交換しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がアセスメントの重要性を理解し、出来るだけ早く本人に安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは定期的に連絡をとっており、来所の際には不安や要望の話を聞き、解消できるように努めています。また、毎月、本人の近況報告などを手紙にて伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントをとりながら、本人や家族の希望を伺い、グループホームで出来る事と出来ない事を説明し、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事、レクリエーション等の造作物を作成することで、共同生活をしているという意識を持ってもらうよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族も一緒に参加していただけるよう通知を出す等して、気軽に来所していただける雰囲気をつくっています。病院受診に同行して頂く時もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族に毎年年賀状を出したり、定期的にお手紙を出したりしています。面会はコロナウイルス感染防止の為、玄関先で面会出来る環境を作っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズになるようにリビングの座席の配置を考慮したり、孤立することが無いように職員が間に入り関係を保つように努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が停止した後でも、必要に応じて可能な限りフォローするようにしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けており、各利用者様に担当職員が決まっています。その為、毎月のスタッフ会議にて、各担当者がそれぞれの利用者様の思いや希望、状態などについて発言をし、検討が必要な場合は全員で話し合いをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人からこれまでの生活観や環境を聞く、または以前サービスを受けていた場所からの情報提供を通じて、なじみの暮らし方の把握をできるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で話し合って情報を共有し、日々の暮らし方や心身状態の把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをとり、計画作成担当が本人や家族の意見をまとめて介護計画を作成しています。ニーズの変更やADLが明確に変化があった場合なども、必要に応じてその都度見直しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護サービス実施記録を作成し、長期、短期目標を達成する為に、スタッフが内容を確認しサービスができた日には印を押し、月末にサービスが適切に提供されているか明確にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な限り対応していきたいと思っていますが、現段階では多機能化への取り組みは行っていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域の特徴を調査、把握して活用していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は系列の病院へ希望する家族が多く、職員が付き添い、介助を行っています。以前からのかかりつけ医希望の場合、家族が付き添い、その後家族から情報を聞き、共有が出来るようにしています。家族が対応できない場合は職員が付き添う事もあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の健康管理の他に、系列病院と24時間体制で連携をとりながら利用者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や相談員と相互に連絡を取り合って、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、事業所で出来る事と出来ない事を説明し、同意をいただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修で実践力を身につけられるよう努めています。また、急変時の対応マニュアルを用意いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームではあらゆる事象を想定した防災訓練を、年2回(3月11月)行っています。また、夜間にも対応できるように緊急連絡網を作成し、災害時に活かせるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけが大切だという事は職員も理解しています。気になる対応があった場合にはその都度指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを大切にしています。個々の希望を表現しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	便宜上、ホームでの1日の流れを作成していますが、それに捕らわれることなく、利用者のペースで過ごせるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容をはじめ、2ヶ月に1回、任意での散髪を行っています。また、本人の希望にあわせた服装をしてもらえるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面に考慮しながら、食事前、後のテーブル拭きを職員と一緒にを行っています。献立を変更して寿司やカップラーメンを食べたり、ホットケーキ、どら焼きを一緒に作るイベントを行いました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは栄養士により管理されています。水分量も不足しないように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや介助にて口腔ケアを行っています。義歯使用者は許可を得て眠前に預かり、洗浄しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員で共有し、出来るだけトイレで排泄を行っていただくよう支援、援助しています。夜間は睡眠を優先しオムツを使用している方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や適度な運動など、個々に応じた予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴担当者を配置し、基本的には週2回ですが、希望があればいつでも入浴できるようにしています。また、好みにより入浴剤も使用しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬の説明書をよく読み、理解した上で服用の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、日光浴、散歩、読書、工作など、利用者がゆっくりと過ごせる環境を提供できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は担当職員が中心になり個別及びグループ別に外出援助をしていました。現在コロナ禍で外出は出来ない為、施設周辺を散歩するようにしたり、受診の際に帰りにドライブをしながら帰ったりしています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族が行っていますが、本人と家族の希望により、少量のお金を所持し、職員と共に買い物に出かけた際、自身で購入することが出来るよう勤めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙のやり取りが出来るように支援しています。電話も必要があれば取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度に配慮し、エアコン、加湿器を利用し過ごしやすい環境を提供しながらも、適宜空気を入れ替えるなど、工夫して生活環境を整えています。また、季節の物の工作物や、お花を飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際にソファを設置し読書やTV鑑賞など、くつろぎながら生活できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に頼んで、馴染みのある物を持ち込んでいただき、なるべく自分の家にいるかのような空間作りを目指しています。お部屋に位牌を置いている方やアルバム、家族との写真を飾っているお部屋もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、リビングやトイレなどには手摺りを設置し、出来るだけ自立した生活を送れるような環境にあると思います。		